

## 2018年度 前期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	青山 芳文
顕彰科目名	知的障害者の心理 I
<p>●授業運営において工夫している点</p> <p>&lt;授業環境等の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対的ルールを「私語の禁止」のみに絞り込み、その意味を共有して、徹底する。[大多数の学生が安心して心地よく授業を受けるための環境設定であり、感覚過敏のある学生にとっては必須条件]</li> <li>・毎回、15回全体の構成・今日の授業の流れをスライドで明示して見通しを持てるようにするとともに、単位認定に係る積算基準を明示する。[見通しを持ち、安心して授業を受けるための環境設定]</li> <li>・コミュニケーションカード（毎回提出）の記述を次回の授業内容に反映させる。また、一人一人の記述は平常点評価として積算するとともに、受講者に共通している記述、自分の経験に引き寄せた記述、ユニークな発想などを時間の許す範囲で紹介して学生同士の間接的なコミュニケーションを図る。</li> </ul> <p>&lt;授業内容・授業展開等の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目全体の到達目標、毎回のねらい（学習内容・達成目標）を絞り込み、講義の中にあれもこれも盛り込むことを避ける。（盛り込めなかった内容は、紙の資料として配付したり、教科書や参考図書のページを示したりしておく。）</li> <li>・基本的にすべての専門用語や概念は、可能な限り専門用語を使わずに日常で使う日本語に「意識」して開設し、感覚的・イメージ的に把握できるように（自分の感覚に引き寄せて理解できるように）日常的に体験する場面を例にあげて説明する。（大学院生を含めて、専門用語のみを使った論理的理解では、知識量は増えるし理屈は分かっても、臨床場面では役に立たない。）</li> <li>・そのために、感覚的・イメージ的に理解しやすい映像（例えば、定型発達の幼児の発達過程が分かるDVD や知的障害のある子どもの活動している DVD など）を活用している。（ただし、この方法はイメージが見た映像に偏ってしまうリスクがあるので、留意することが必要）</li> <li>・その上で、専門用語の定義は正確に示しつつ、一定論理的な（「なるほど、そういうことなのか」と腑に落ちるような）説明を加える。</li> <li>・科目全体を通しての本当に大切な概念（この科目では「知的障害とはいったいどういうことなのか？」など）については、毎回同じパワーポイントのスライドを提示することにより、大切な概念の定着に努めている。</li> <li>・講義を聞いたり、映像を見たりするだけではなく、席が近い学生同士で意見交換したり、イメージを深めるために雑談する時間を短時間でも取るように努めている。（授業環境等の工夫の欄に記したコミュニケーションカードの活用と共通）</li> </ul> <p>●今後取り組んでいこうと考えていることなど</p> <p>可能な限り上記の取り組みを継続しつつ、一人一人の学生の感じ方や分かり方を理解しながら授業を進めていきたいと考えています。</p>	